足場を作っている段階

足場を作るという作業は、お浄土への歩みである。

下がらされる歩みだけれど、実際は上がって行っている

下がっているつもりが上がってしまう。

そういう苦しい矛盾を孕みながらも

前へ進むしかない。

前へ進んでいるのか、後ろに下がっているのか

同じところをグルグル回線しているみたい

たすかるの

たすからないの

この辺りになると、後戻りはもうできない

仕方なく前へ前へやけっぱちになりながら

もうどうせたすからないのだから

自力の私は限界に来ている

といったジレンマの中

光をたよりに進むという二十願

長いと聞くけれど、一体ゴールはあるのだろうか・・・

あの教え、この教え、を足場に最後は

南無阿弥陀仏一つにならされる

南無阿弥陀仏にみな籠っている

南無阿弥陀仏に遇いたかったのだと

南無阿弥陀仏一つあればいい。

その中に、私が欲しかったものがすべて入っている

自分でも分からなかった自分が要求しているもの

私は南無阿弥陀仏に遇いたかったんだ

南無阿弥陀仏を称えたかったんだ

そこは機法一体の南無阿弥陀仏

それからは、南無阿弥陀仏が生きてくださる

私に代わって私を生きてくださる

私の業を使って、仏様のお仕事をさせてくださる

ようやく慶びが湧いて来てくださる

こんな私に

ようこそまあと何回だって称えたくなる

そういいながら